

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）

（分担）研究報告書

ブロック拠点病院のない自治体における中核拠点病院の機能評価と体制整備のための研究

～オール四国の体制の整備～

課題番号：21HB1007

【分担研究4】地域で実践的なポケット版小冊子の作製

研究分担者：高田 清式（愛媛大学医学部附属病院 教授）

研究要旨：四国のようにブロック拠点病院が近辺になく、県内の個々のエイズ拠点病院が十分に機能していない、いわゆる地方の比較的医療過疎である地区に、本研究によってHIV診療の充実や均てん化が促されていくことが期待されている。この背景のもと、療養病院および福祉施設に簡便にHIVに関するマニュアルが手元にあることが知識の確認や啓蒙につながると考え、ポケット版の介護マニュアルの発行を考えた。令和4年度の研究成果として、地域でHIV診療に関する実践的なポケット版小冊子を作製（最新の愛媛や四国の現況や針刺し事故時の感染予防内服薬を配備している病院名など具体的に刷り入れた）し四国の主なHIV診療施設および介護および福祉施設に配布を行った。これらの施設ではハンディで判りやすいと概ね好評であった。

研究分担者

今滝修・香川大学医学部・講師
武内世生・高知大学医学部・准教授
尾崎修治・徳島県立中央病院・医療局次長
末盛浩一郎・愛媛大学医学部・准教授
井門敬子・南松山病院・薬剤部長
若松綾・愛媛大学医学部附属病院・看護師
中村美保・高知大学医学部附属病院・看護師
小野恵子・愛媛大学医学部附属病院・総合診療サポートセンター・社会福祉士

A. 研究目的

四国地区という、ブロック拠点病院が近辺にない愛媛県において当院は、エイズ地域

中核拠点病院に指定され、累計220名以上の患者を治療している。四国地区は近年HIV・エイズ患者の増加が著しく、当県もエイズ拠点病院に指定されている病院が15施設もあるものの殆どが診療未経験であり、大半の患者が当院に受診している現状で、四国の他県も同じ様な実情である。かつ四国地区は、高齢化率が各県32.2～35.9%であり、都市に比べ高齢者のHIV・エイズ患者が多く、HIV感染および合併症が進行し日常生活に差し障りが著しく自宅以外での長期療養が必要な例も少なくない。急性期病院の当院も、自宅で生活困難な長期療養患者の対応については、他の施設への紹介・受け入れを個々の事例におい

て行いつつあるが HIV に対する不安や感染リスクも問題になり、受け入れに苦慮している実情である。さらに治療以外にも家族対応および就業面など社会的な対応も迫られることも多い。

この実情にて愛媛県各地域の各病院・施設と連携を行うように努めているものの、対応すべき HIV 感染症患者は多くかつ経済・人材面も満たされておらず、連携しうる病院・施設への啓蒙や人材の育成も患者数の増加からは極めて不十分な状況である。

この背景のもと、療養病院および福祉施設に簡便に HIV に関するマニュアルが手元にあることが知識の確認や啓蒙につながると考え、ポケット版の介護マニュアルの発行を考えた。

B. 研究方法

介護時の HIV 感染予防対策なども折り込んだ、愛媛および四国での実用的な（最新の愛媛や四国の現況や針刺し事故時の感染予防内服薬を配備している病院名等具体的に刷り入れた）HIV に関するポケット版マニュアル（18 x 10 c m 大程度の予定）を作製し県内および四国の主だった HIV 診療施設に配布した。また、各出張講義や在宅看護の現地研修の参加者にこの介護用のポケット版マニュアルを配布し感想や意見を聴取し次回の介護用の小冊子の改訂版にも反映させる。

このポケット冊子に関しては、事前評価委員からも面白いという意見・評価もいただいております。今後現場での意見も聞きつつさらに改良した冊子を将来は作製したい。さらに HIV 感染者の受け入れが円滑に進むような、受け入れ Q&A も作製を検討する。

（倫理面への配慮）

患者および関係者に対する人権の保護に配慮して行い、調査に協力できない場合も不利益にならないようにする。

C. 研究結果

介護時の HIV 感染予防対策なども折り込んだ、愛媛および四国での実用的な（最新の愛媛や四国の現況や針刺し事故時の感染予防内服薬を配備している病院名など具体的に刷り入れた）HIV に関するポケット冊子（携帯できるように 18 x 10cm 大で三つ折り）を作製し県内および四国の主な HIV 診療施設に配布した（安心して介護ができるように、針刺し事故後の感染確率や高齢化が進み全国的に 50 歳以上の HIV 感染者が 35% を占めているグラフも紹介し、高齢化の対応が四国地方での必要性を強調した）（図 1、2）。



図 1、2HIV 介護マニュアルポケット版

D. 考察

令和4年度の研究成果として、地域でHIV診療に関する実践的なポケット版小冊子を作製（最新の愛媛や四国の現況や針刺し事故時の感染予防内服薬を配備している病院名など具体的に刷り入れた）し四国の主なHIV診療施設および介護および福祉施設に配布を行った。これらの施設ではハンディで判りやすいと概ね好評であった。

地方において、充足した生活が1人では送れないHIV感染患者に対し、拠点病院および介護福祉間の連携が円滑にできるように努めていく必要があると考える。その参考としてこのポケット版マニュアルが多少でも役立つことを期待している。

E. 結論

ブロック拠点病院がない地域において、HIV診療体制整備として、介護および福祉施設の充実を目的に、HIV感染症に関する介護用マニュアルを作製した。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. 中村美保、前田英武、岡崎雅史、西田拓洋、朝霧正、四國友理、笹岡優衣、高田清式、武内世生、HIV陽性者の就労状況調査-10年前と比較して-、日本エイズ学会誌、24(3):99-103,2022

2. Suemori K, Taniguchi Y, Okamoto A, Murakami A, Ochi F, Aono H, Hato N, Osawa H, Miyamoto H, Sugiyama T, Yamashita M, Tauchi H, Takenaka K. Two-year seroprevalence surveys of

SARS-CoV-2 antibodies among outpatients and healthcare workers in Japan. Jpn J Infect Dis 75(5):523-526, 2022

3. Morizane A, Uehara, Kitamura S, Komori M, Matsushita M, Takeuchi S, Seo H. Staphylococcus aureus nasal colonization increases the risk of cedar pollinosis. Jof general and family medicine 23: 172-176, 2022

4. 高原由実子、三木浩和、中村信元、中村昌史、住谷龍平、大浦雅博、曾我部公子、高橋真美子、丸橋朋子、原田武志、藤井志朗、安倍正博、岡本秀樹、岡田直人、矢野由美子、高橋真理、青田桂子、尾崎修治、HIV感染症および後天性免疫不全症候群患者の臨床的特徴と今後の課題。四国医学雑誌 78(1,2) : 2022

2. 学会発表

1. 高田清式、愛媛でのHIV診療の現況～必要とされている四国地方での実際～、第92回日本感染症学会西日本地方会学術集会シンポジウム、2022年、長崎。

2. 臼井麻子、中尾 綾、西田拓洋、吉川由香、海面 敬、赤松祐美、谷英俊、池谷千恵、中村美保、川田通子、武内世生、佐藤穰、今滝 修、尾崎修治、和田秀穂、千酌浩樹、河邊憲太郎、山之内純、高田清式、中国四国地方におけるHIV関連神経認知障害に関する研究。日本エイズ学会、2022年、浜松。

3. 中尾 綾、レイシー清美、山之内純、末盛浩一郎、河邊憲太郎、竹中克斗、高田清式、HIV感染者の気分状態と睡眠に関する検討。日本エイズ学会、2022年、浜松。

4. 菊池正、西澤雅子、小島潮子、大谷眞智子、椎野禎一郎、程野哲朗、高田清式、吉村和久、杉浦互他. 2021 年の国内新規診断未治療 HIV 感染者・AIDS 患者における薬剤耐性 HIV-1 の動向. 日本エイズ学会、2022 年、浜松.
5. 中村美保、四國友理、西田拓洋、高橋武史、前田英武、岡崎雅史、宮崎詩織、武内あかり、中尾 綾、高田清式、武内世生. MSW と看護師の連携による ADL 低下患者への復職支援. 日本エイズ学会、2022 年、浜松.
6. 若松 綾、本園 薫、中尾 綾、永井祥子、池田 聖、乗松真大、井門敬子、末盛浩一郎、越智俊元、山之内純、高田清式. 長期療養患者への関わりについて. 日本エイズ学会、2022 年、浜松.
7. 末盛浩一郎、谷口裕美、本園 薫、高田清式、竹中克斗. HIV 感染治療者における BNT162b2 ワクチン接種後の抗体価の評価. 日本エイズ学会、2022 年、浜松.

H. 知的財産権の登録状況（予定を含む）

該当なし